



図書館便り

1月号

江戸の町はどんなところ？

今月は、江戸時代をテーマにした本を紹介しします。町人やお殿様になった気分江戸時代の雰囲気を感じながら読んでみてください。



●『江戸の笑い 21世紀版少年少女古典文学館』



興津要／著 講談社（分類：913）

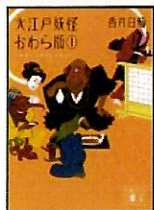


江戸時代の人々に親しまれてきた小咄や落語、川柳などが紹介されています。読んでみると、大笑いというより、「くすっ」「にやり」というような笑いを誘う作品が多かったです。また、殿様、どろぼう、大食いの人などの登場人物たちの会話を通して当時の生活の様子を感じ取ることができますよ。

●『大江戸妖怪かわら版1 異界より落ち来る者あり』

香月日輪／作 講談社（分類：913）

雀は、妖怪都市・大江戸でくらしている人間の少年です。かわら版屋に雇われ、日々の事件などを記事にしています。怖そうな見た目とは違って気の良い妖怪たちがぐらす活気あるまちの雰囲気に、不思議な設定なのに、次第にひきこまれていきます。



マークの本は図書館にあります。

●『三年長屋』

梶よう子／著 KADOKAWA（分類：913）



「三年長屋」は別名「かつば長屋」。河童を祀った祠があります。そのご利益なのか、この長屋で暮らせば3年のうちに願いがかなうという評判があります。でも、実は…。理由あって武士であることをやめ、楊枝屋を営みながら慣れない新米「差配」を務める佐平次が主人公。それぞれ事情を抱えた長屋の「店子」たち、腹黒い町の顔役、影のような男を従える謎めいた家主の女性などの登場人物と佐平次の関わりが人情味たっぷりに描かれます。江戸っ子らしい、テンポのいい会話や語り口もお楽しみください。



●『江戸ビジュアル図鑑（双葉社スーパームック）』



昔のことはよくわからない…と、時代小説を敬遠しているなんてもったいない！江戸を舞台にした小説には青春もの、ミステリー、^{あやし}妖もの（ファンタジー？）など現代小説同様、さまざまな楽しみがあります。この本の副題は「時代小説の用語と場面がよくわかる」。「江戸の町とつくり」「暮らしと文化」「江戸城と武家」の3つの章に分け、カラーの図版をたっぷり使って解説しています。巻末には、年表と索引がついています。

おしらせ



- 今月の開館予定は、12日（火）、18日（月）、25日（月）
昼休み、放課後（16:00まで）です。
3日間とも全クラス利用可です。
- 冬休みに借りていた本は1月18日までに、返してください。（閉館時は扉前の返却箱に入れてください。）
- 新着案内が裏面にあります。
ご覧ください。

1月の図書館

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

★の日に図書館スタッフが来ています。

新着案内

2021年1月

新着図書の一部を紹介します。

東京都板橋区立赤塚第三中学校図書館

『元素検定 [1] The ELEMENT EXAMINATION』

(分類431)

桜井弘／編著 化学同人

元素に関するあれこれを集めて4択の問題形式で出題・解説する本です。レベルは「中学生」「高校生」「理系高校生」「大学生」さらに「専門家・元素マニアレベル」の5段階。レベル5といっても、「中国語で水素を表す漢字は？」のように文系寄りの設問や電動自転車の仕組みなど身近な話題も。「元素力」判定に挑むのもよし、元素トリビアを楽しむのもよし。[2]もあります。



『ペットと防災ハンドブック』

『どんな災害でもネコといっしょ』 (分類933)

徳田竜之介／監修 小学館クリエイティブ

同シリーズの『どんな災害でもイヌといっしょ』も入りました。家族の一員とも言えるペットとの避難を想定したことはありますか？NOならもちろん、YESの場合はたてた対策を比べるために、ぜひ、手に取ってみてください。実際にペットとの避難を経験した人たちの声、被災地支援の方法も掲載されています。



『信じてみたい幸せを招く世界のしるし』(分類387)

米沢敬／著 出口春菜／画 創元社

これは、「だれか大事な人に贈りたい本」になるかもしれませんよ。世界は幸運のしるしであふれている、と感じさせてくれる1冊です。分類番号387が示す内容は「民間信仰、迷信」。世界のあちこちで「しるし」はさまざま…例えば、黒猫が幸運を招いたり、木曜日のくしゃみに意味があったり…。おさえた色使いの、やさしい印象のイラストもお楽しみください。



『星を楽しむ 双眼鏡で星空観察』

月、星、彗星、星雲・星団、星座をめぐって星空さんぽ』

(分類442)

大野裕明、榎本司／著 誠文堂新光社

天体望遠鏡よりもずっと手軽！肉眼よりもずっとよく見える！双眼鏡での星空観察を始めてみませんか？双眼鏡の種類や扱いの解説が手厚い本です。惑星観察のポイントや季節ごとの星空の見どころなど、一年を通して活用できます。同じシリーズの『星座のを見つけかた』とあわせて、どうぞ！



『赤毛証明』 (分類913)

光丘真理／著 くもん出版

“ふつう”は、何気なく口にしたり、よく耳にしたりする言葉ですね。この物語の主人公は茶色がかかった髪の中1の少女、めぐ。毎朝校門で提示するようにと、生徒手帳に「赤毛証明」のゴム印をおされま。めぐは、「ふつうでないらくいん烙印をおされた」と感じ、「ふつうってなに？」と考え始めます。幼なじみや親友、先生など周囲の人たち、それぞれの“ふつう”が見えてきます



『おとめ六法』 (分類320)

上谷さくら、岸本学／著 Caho／イラスト KADOKAWA

「おとめたち」が自分らしく生きるのを応援する本です。「こうしたい」「これはいやだ」という思いを受け止めたり肯定したりする法律や条例が示されています。「恋愛」「SNS・インターネット」「学校」「くらし」「しごと」「結婚」の6つの章で、トラブルの事例を挙げて解説。自分はおとめではないけれど、おとめを守りたい！という場合にもおすすめです。



『花屋さんになろう！』 (分類673)

本多み／著 青弓社

「花屋さん」の世界は広い！お客さんに花を売ったり注文に応じて花束をつくったりするのは、ほんの一面。さまざまなタイプの花屋さんがあり、仕事内容もいろいろ。花屋さんという職業を多面的に見せてくれる本です。第6章・第7章は、花屋さん志望以外の人にも読んでもらいたい内容です。これから社会で仕事をしようという読者への配慮やエールがまつまっています。



『鹿の王 水底の橋』 (分類913)

上橋菜穂子／著 新潮社

本書に先立つ物語として『鹿の王』があり、その続編です。が、この作品だけでも、じゅうぶん読みごたえがあります。本編には、^{えきひょう}疫病をめぐる謎に加えて大国と小国の関係も描かれた複雑な展開を味わう醍醐味があります。いっぽう本書は、異なる^{だいごみ}医術をあつかうホツサルとミラル、二人を中心にした展開です。病と人に向き合う^{しんし}真摯な姿が描かれています。

